

白老高齢者複合施設
認知症対応型共同生活介護

認知症グループホーム **わか** **か** **和花**

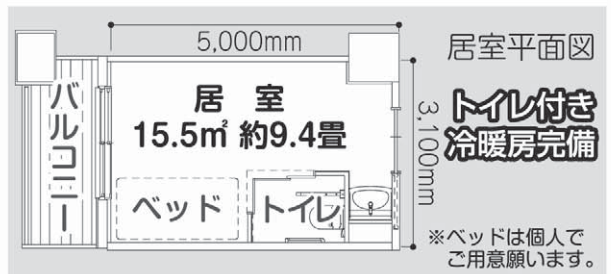
1ユニット9名×2 定数18名

1か月のご利用料金

家賃	食事代	光熱水費	介護保険料
31,000円	42,000円	16,950円	自己負担額

月額 **89,950円**

- ※上記料金の他、介護保険料の自己負担が生じます。
- ※生活保護受給者の方もご入居頂けます。
- ※食費・光熱水費は1ヵ月30日の場合の記載です。
- ※ご入居時に敷金として100,000円が必要となります。
- ※暖房料として10月～3月は月額5,000円が必要となります。



—いつまでも快適で
安心できるシニアライフを—



医療法人社団玄洋会 道央佐藤病院

白老高齢者複合施設

施設のご入居、ご利用等の相談は ☎(0144)82-2200

受付時間 9:00～17:00 (土日祝除く) 担当：田代

白老町東町2丁目4-12

元気のつぼき 知っておこう アイヌ文化

ヨナルではないので、研究者のような専門的なことは書けない。イオル事業の体験を基本に本当につれづれに書いています」と話す▼森さんは道東の白糠町出身。小さい頃の家族旅行で訪れた仏領ポリネシアに魅せられ、大学、院で仏文学と文化人類学を学ぶ。白老に縁あって、2018年6月からイオル事業の学芸員を務めている▼朴訥とした人柄で、決しておしゃべりな方ではないが、コラムの「語り」はなかなかのもの。アイヌ民族の楽器や漁・農耕の道具、食の材料、生活用具などについてのお話は、学究的ではなく、どちらかといえば他愛のないものなのだが、「自然の中にあるものを利用し、実用的な道具を作り出すアイヌ民族の知恵」「恵みを受けてくれるカムイ(神)に感謝し、来年も授けてください」と祈りながら必要な分だけ採取するというアイヌの人々の考え方や姿勢と、さりげなくアイヌ文化の本質世界が語られる。読者も片意地張らずにポテチを食べながら……というあんばいだ▼森さんがコラムを執筆する際の視点は、特に若い世代に置いているという。「この世代に伝えないと、地元のことも分からない大人になってしまふ。これは恐ろしいことです」と。最近の体験事業で実施した川のイオル。参加した子どもたちがいけすでマレク(漁具)でサケを捕り、棒(イサパキクニ)で頭をたたいて解体するまでを体験した。児童の中には、サケを殺すことを「かわいそう」「残酷だ」と躊躇する子もいたが、「生き物の命を頂いて私たちが人間が生かされていることを知ってもらいたかった」(昨年12月号「命を頂くといいこと」という。イオル事業、このコラムで伝えたいのはそんな内容なのだ▼毎回「どうやって伝えていこうか」と思案しながらのイオル体験事業だが、忘れてならないのは「この事業は準備や講師などたくさんの方の地元の人たちに支えられている」こと。そんな森さんに新年度(2020年度)もコラムの執筆継続を依頼、快諾された。よっしゃあー！(竹)

▼本号で第24回となった連載企画「知っておこうアイヌ文化」。私はこのコラムのファンの一人だ。白老に勤務し始めたところからアイヌ民族・文化関係の情報には努めて目を通すようにしているが、このコラムが取り上げる題材は、既成の書物や情報にない身近な題材なのがお気に入り。筆者の町学芸員・森洋輔さんは「私はアイヌ文化のプロフェッショナルではないので、研究者のような専門的なことは書けない。イオル事業の体験を基本に本当につれづれに書いています」と話す▼森さんは道東の白糠町出身。小さい頃の家族旅行で訪れた仏領ポリネシアに魅せられ、大学、院で仏文学と文化人類学を学ぶ。白老に縁あって、2018年6月からイオル事業の学芸員を務めている▼朴訥とした人柄で、決しておしゃべりな方ではないが、コラムの「語り」はなかなかのもの。アイヌ民族の楽器や漁・農耕の道具、食の材料、生活用具などについてのお話は、学究的ではなく、どちらかといえば他愛のないものなのだが、「自然の中にあるものを利用し、実用的な道具を作り出すアイヌ民族の知恵」「恵みを受けてくれるカムイ(神)に感謝し、来年も授けてください」と祈りながら必要な分だけ採取するというアイヌの人々の考え方や姿勢と、さりげなくアイヌ文化の本質世界が語られる。読者も片意地張らずにポテチを食べながら……というあんばいだ▼森さんがコラムを執筆する際の視点は、特に若い世代に置いているという。「この世代に伝えないと、地元のことも分からない大人になってしまふ。これは恐ろしいことです」と。最近の体験事業で実施した川のイオル。参加した子どもたちがいけすでマレク(漁具)でサケを捕り、棒(イサパキクニ)で頭をたたいて解体するまでを体験した。児童の中には、サケを殺すことを「かわいそう」「残酷だ」と躊躇する子もいたが、「生き物の命を頂いて私たちが人間が生かされていることを知ってもらいたかった」(昨年12月号「命を頂くといいこと」という。イオル事業、このコラムで伝えたいのはそんな内容なのだ▼毎回「どうやって伝えていこうか」と思案しながらのイオル体験事業だが、忘れてならないのは「この事業は準備や講師などたくさんの方の地元の人たちに支えられている」こと。そんな森さんに新年度(2020年度)もコラムの執筆継続を依頼、快諾された。よっしゃあー！(竹)

白老町の人のうごき

総人口 16,557人(前月比21人減)
男 7,875人 女 8,682人
世帯数9,374世帯(前月比2世帯減)
(令和2年2月29日現在)

■編集 広報元気編集室(町民活動サポートセンター内 白老町大町1丁目1番1号)
TEL 0144-82-5110 FAX 0144-82-4253 Eメール katudou@shirai-tc.jp

■発行 白老町企画課(白老町大町1丁目1番1号)
TEL 0144-82-8213 FAX 0144-82-4391 Eメール kikaku@town.shirai.hokkaido.jp
白老町 HP <http://www.town.shirai.hokkaido.jp/>

